

contents

〈展覧会紹介〉「手塚雄二展」	[2~3]
〈イベント報告〉Reborn2 I「さらば平成！土田ヒロミの写真で見る平成ニッポンの新時代」	[4~5]
Reborn2 I「生誕100年 現代日本画の変革者 三上誠」	
Reborn2 II「浮世絵美人勢揃！美人画の変革」	
〈イベント報告〉「世紀の屏風絵」特別公開	[6]
美術館イベント報告	
〈イベント報告〉「スーパークローン文化財展」	[7]
次回展覧会のお知らせ	[8]
美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ	
〈お知らせ〉休館日・主催共催展情報・貸館情報	

表紙：手塚雄二《秋麗》(部分) 2015年 個人蔵





光を聴き、風を視る

神さびる風景、ここに極まれり

# 手塚雄二展

令和元年  
9/6金 ▶ 10/6日 ※休館日なし

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
【当日券】一般・大学生1200円(団体960円)、高校生700円(団体560円)、中・小学生400円(団体320円)  
※団体は20名以上 ※障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額  
【主催】福井県立美術館、日本経済新聞社  
【共催】福井新聞社、FBC



撮影:平間至

本展は当館特別館長である手塚雄二(1953年生まれ)の大回顧展です。大学の卒業制作からはじまり、近年の院展出品作まで、手塚特別館長が画家として歩んだ40年を通覧できる内容となっています。

手塚特別館長は長きにわたり東京藝術大学の教壇に立ち、多くの後進を導く一方で、日本美術院の同人・理事として精力的に作品を発表し続けています。常に新しい日本画の在り方を示してきたその作風は、画壇に新風を吹き込み、世代を代表する作家として現代日本画を牽引しています。代表作が一堂に会する本展は、大画面に展開する煌びやかで壮大な世界、あるいは詩情あふれる雅な手塚芸術を紹介する貴重な機会となります。また初公開となる画家のスケッチや下図など約80点を併せて展覧し、画業の全貌に迫ります。



《冬の川》2016年 足立美術館蔵

自分探しの旅



《夢模様》1980年 個人蔵

「シニール」への憧れから自然へ

## 過去最大規模の回顧展!

福井県立美術館の全会場を使用して、本画75点を一挙に展示します。大学の卒業制作から近年の院展出品作まで、これまでの代表作が一堂に会します!

大胆、かつ繊細な視点



左:《風雲風神》2000年 右:《雷神雷雲》1999年 ともに今井美術館蔵

みどころ 2

## 退官記念展覧会を先行展示!

今年度で東京藝術大学を退官する手塚は、10月に東京藝術大学大学美術館で退官展を開催します。福井では藝大美術館に先立ち、本画作品と併せて素描作品を特別に公開します!約80点の素描作品から、画家の知られざる制作の秘密に迫ります。

## 祈りのかたち



《月明那智》2010年 足立美術館蔵

内なる宇宙

— お茶との出会い



《葉(あひみての)》2018年 個人蔵



《訪問着 風の色》2018年 個人蔵

みどころ 3

## あの感動再び!

今年6月に当館で開催した「『世紀の屏風絵』特別公開」には、たくさんの方にお越しいただきました。日本画の正統を継承する手塚が紡ぎ出す、雅で華やかな世界が再び福井へやってきます!

※上記作品はすべて手塚雄二筆



《こもればの坂》1996年 個人蔵

光を聴き、風を視る



《軽井沢 南ヶ丘》2006年 作家蔵

## 会期中の注目イベント!

### ◎プレミアムナイトツアー 要事前申込

閉館後の美術館でプレミアムなひとときを。手塚作品をイメージした音楽を聴き、学芸員の解説付きで会場をめぐります。  
9月14日(土)、22日(日) 17:30~  
[場所] 美術館講堂・展示室内 [定員] 各日80名  
[料金] 一般・大学生1,200円、高校生700円、中・小学生400円 (いずれも観覧券とプチギフト) ※申込は当館HPをご確認ください。

### ◎日本画の巨匠・手塚雄二の世界と福井の食を楽しむ会 要事前申込・会費制

手塚雄二と共にその作品をイメージした創作料理を味わう特別ディナー。  
9月20日(金) 19:00~  
[場所] ユアーズホテル2階・桜の間 [定員] 50名  
[会費] 15,000円(予定)

### ◎トークサロン「展覧会ができるまで」要事前申込・ドリンク代別途必要

本展を担当した学芸員が、展覧会の苦労話や裏話をお話します。  
9月15日(日) 17:00~  
[場所] 美術館喫茶室ニホ  
※申込は当館HPをご確認ください。

### ◎記念鼎談「手塚先生に聞きたい10のこと」申込不要・聴講無料

手塚芸術について徹底討論? 10の質問から制作の秘密に迫ります。  
9月21日(土) 14:00~  
[場所] 美術館講堂  
[登壇者] 佐藤道信氏(東京藝術大学教授)、手塚雄二(当館特別館長)、椎野晃史(当館学芸員)



# Reborn<sup>2</sup> 変革と新時代 I 4/6(土) - 5/6(月・振休)

主催：福井県立美術館

さらば平成！  
写真で見る  
平成ニッポンの新時代  
土田ヒロミの

福井県立美術館では、開館40周年記念を終え、次なる50周年へ向けた企画の第2弾として、《Reborn ～第2章 変革と新時代～》と題し、所蔵するコレクションを中心に、美術の「変革」と「新時代」を共通テーマとした、全5回のシリーズ企画をスタートします。

その第1回として「さらば平成！土田ヒロミの写真で見る平成ニッポンの新時代／生誕100年 現代日本画の変革者 三上誠」を、第2回として「浮世絵美人勢揃！美人画の変革～江戸錦絵を中心に～」を開催しました。



「令和」の時代をむかえ、31年間にわたる「平成」の時代が幕を閉じました。これにあわせ、福井県立美術館のコレクションを中心に、土田ヒロミの写真作品78点により、新たに「平成」の日本を見つめ、これからの新時代＝未来を考える企画を開催しました。

土田ヒロミ(1939～)は、福井県南越前町(旧今庄町)出身の日本を代表する写真家です。1960年代終わりから本格的な活動を開始し、日本の土俗的な文化、ヒロシマ、高度経済成長、バブル経済、フクシマなどのテーマを通して、変貌する日本の姿を撮り続けています。

その視点はずねにユニークで、シリーズごとに異なる明確なコンセプトによって、日本という国に対する問題意識を実験的ともいえるアプローチで表現してきました。

本展では、「パーティー」、「砂を数える」、「新・砂を数える」、「フクシマ」のシリーズによって、バブル期から平成終盤までの日本を時系列に沿って紹介。最後のコーナーでは、作家の表現の原点となる知られざる初期作品と、広島原爆をテーマとした作家を代表するシリーズによって、鑑賞者を新時代への想像へと誘う構成を試みました。

写真による「自己表現」と「徹底的な記録」の両面を行き来することで進化を遂げてきたこの作家の作品からは、写真表現がはらむ倫理性への問いとともに、社会性と時代性の背後に、日本が抱える問題をくみ取ることが出来たのではないのでしょうか。

本展を開催するにあたり格別のご協力をいただいた作家・土田ヒロミ氏に厚く御礼を申し上げます。



# 生誕100年 現代日本画の 変革者 三上誠



福井県立美術館では4月6日(土)から5月6日(月・振休)まで、「生誕100年 現代日本画の変革者 三上誠」展を開催。生誕100年を迎えた福井を代表する戦後の前衛日本画家・三上誠の初期から最晩年までの作品を一堂に展示し、三上の作風変遷の軌跡を紹介しました。

本展関連イベント「演劇『三上誠の生涯』(戯曲：嶋田正「三上誠・パンリアル美術運動の旗手」より)等、作家の活動を検証するイベントも行われ、多くの方々にご来場いただくとともに、新聞、テレビ等のメディアで大きく扱われ、沢山の反響をいただきました。

ご来場いただいた皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。

## 《関連イベント》

### ●演劇「三上誠の生涯」 (戯曲：嶋田正「三上誠・パンリアル美術運動の旗手」より)

[日 時] 4月29日(日・祝) 午後5時～6時

[場 所] 福井県立美術館第3展示室

[出演者] 佐々木雪雄氏(俳優・演出家)

野村深山氏(檜三味線創作者・演奏者)

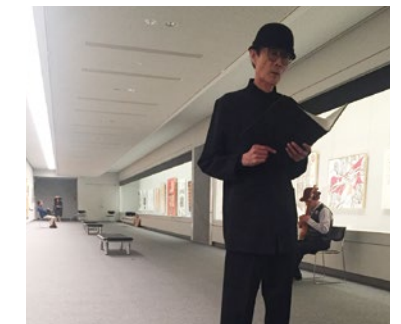
さのやん氏(ギター)

花房禅佑氏(瑞源寺住職)

[参加人数] 75名



4月29日午後5時から、「演劇『三上誠の生涯』」を開催しました。この日の為に、関連文献を読み込み、眼鏡を調達し、長い髪を切った佐々木雪雄氏。三上本人かと思ふような立ち姿で登場し、タイムトンネルを潜るように初期から最晩年までの展示作品を紹介しつつ三上を演じました。さらには生前の三上をよく知る2人のシークレットゲストに話しかけるというサプライズも織り交ぜ、半世紀も前に亡くなった三上を間近に感じることができる素晴らしい演出。最終幕では病魔におかされながらも「生きたい、生きたい、生きたい、生きたい…」と呟く三上の微かな声やがて読経へと変わり、演者、観賞者全員が、昇天していく三上を見届けるかのような不思議な空気感の中、泣き出す方も現れるなど、感動の渦に包まれて閉幕しました。この日の為に全精力を注いでくださった佐々木雪雄さん、演出に協力くださったミュージシャンやゲストの方々、本当にありがとうございました。



作家本人になりきった役者が作品の前でその時々的心情を吐露する演劇は当館初の試み

# Reborn<sup>2</sup> 変革と新時代 II 5/11(土) - 6/2(日)

主催：福井県立美術館  
後援：国際浮世絵学会

美人画の変革 — 江戸錦絵を中心に —  
浮世絵美人  
勢揃！  
— 歌麿、国貞、芳年が愛した女 —



浮世絵は近年、改めて国内外の注目を集めています。本展では江戸時代に制作された作品を中心に、浮世絵美人画の世界をご紹介します。

庶民のための芸術として、娯楽として、またメディアとして華々しい展開をみせ、さまざまな事象を描いた浮世絵ですが、特に美人風俗は主要なテーマであり、現在も高い人気を誇ります。話題の茶屋娘や最先端のファッションをいち早くとらえた浮世絵美人画は美しいだけでなく、江戸っ子の好みの移り変わりを現代のわれわれに教えてくれます。明治期になると写真や石版画といった新しい印刷技術がもたらされ、国内ではそれらに取って代わられるように浮世絵版画が衰退していききましたが、日本画をはじめとするあらゆる美術の成立に少なからぬ影響を与えるなど、江戸錦絵の遺伝子は受け継がれていきました。また江戸で培われた木版画の技術は、大正新版画や創作版画といった次世代の芸術を育む礎となったのです。

本展では浮世絵版画約50点を公開し、併せて館蔵品から肉筆浮世絵、また女性像を表した近現代絵画作品をご紹介します。全62点の作品で美人画の変遷をたどりながら多彩な美の世界をお楽しみいただきました。

## 《関連イベント》

### ●ギャラリートーク

[日 時] 6月1日(土) 午後1時30分～2時

[場 所] 美術館第4展示室

[講 師] 前田詩織(当館学芸員)

[参加人数] 25名

### ●担当学芸員によるトークサロン 「美人画のお話」

[日 時] 5月18日(土) 午後6時～7時

[場 所] 美術館喫茶室ニホ

[講 師] 前田詩織(当館学芸員)

[参加人数] 23名

### ●重ね摺り体験コーナー「オリジナル浮世絵づくり」

[開催期間] 展覧会会期中

[場 所] 美術館エントランスホール



トークサロン風景



重ね摺り体験コーナー作品



現代日本画の巨匠  
手塚雄二が描く  
「日月四季花鳥」

# 「世紀の屏風絵」 特別公開 6/7金▶23日

主催：福井県立美術館  
日本経済新聞社  
共催：福井新聞社  
FBC



「屏風名品撰」会場写真

福井県立美術館では6月7日(金)から23日(日)まで「世紀の屏風絵」特別公開を開催しました。1階の会場では、当館の特別館長を務める手塚雄二が描いた「日月四季花鳥図屏風」とその下図5点を紹介しました。この屏風は、次の100年間は人の目に触れることのないと思われるもので、貴重な屏風を一目見ようと、会期中には県内外から多くの方が来場されました。会期中に開催した関連イベントは軒並み大盛況で、屏風を前にして涙流す方が続出するなど、総じて注目度の高さがうかがえる展覧会でした。また2階の会場では、当館が所蔵する屏風を「名品撰」と銘打って展観しました。ソファに腰掛けてゆっくりと屏風の世界に浸る姿が印象的でした。

## 《関連イベント》

### ●記念講演会

「手塚雄二先生制作の『日月四季花鳥図屏風』について」

【日時】6月8日(土) 午後2時～3時30分  
【場所】美術館講堂  
【講師】黒田泰三氏(明治神宮ミュージアム館長)  
【参加人数】150名



開会式で挨拶する手塚特別館長

### ●学芸員によるギャラリートーク

【日時】6月15日(土)、22日(土) 各回午後2時～3時  
【場所】美術館第2～4展示室  
【講師】椎野晃史(当館学芸員)  
【参加人数】各回とも80名



講演会(黒田氏)は満員御礼!

## 《美術館イベント報告》

### ●「新たな鼓動の幕明けCollection展」

日 時	協力者	会場
5月1日(水)～6月2日(日)	啓新高等学校ファッションデザイン科	エントランスロビー

### ●「新たな鼓動の幕明け」音楽会

日 時	出演者	参加人数	会場
5月1日(水) 14:00～	ギターソロ HIROKO	52人	エントランスロビー
5月1日(水) 15:00～	女性デュオ Felice Armonia	36人	
5月3日(金) 13:00～	サクソ&電子ピアノ演奏 Lulu	15人	
5月4日(土) 12:00～	フルート、ギター、ベース演奏 長谷川一美 他	10人	
5月4日(土) 13:15～	リコーダー演奏 野尻雅彦	17人	
5月4日(土) 14:30～	オカリナ演奏 田賀優及子 フルード・オカリナ研究会	34人	
5月5日(日) 14:00～	フルートアンサンブル FUKUI 笛 Café アンサンブル RIKO	29人	
5月5日(日) 15:00～	ハープ&マンドリン 広部正雄 桐山進	25人	
5月6日(月) 11:00～	マンドリンアンサンブル かのん	51人	

東京藝術大学

# スーパークローン文化財展

7.12金▶8.25日 主催：スーパークローン文化財展実行委員会(福井県立美術館、福井新聞社、FBC)

バーミヤン、敦煌、  
法隆寺からゴッホまで

この夏、世界の宝に触れに行く



今夏、福井県立美術館では、文化財に親しむとともに、その未来の姿を提案する新しいかたちの展覧会「東京藝術大学スーパークローン文化財展 ～バーミヤン、敦煌、法隆寺からゴッホまで～」を開催しました。

保存と公開の両立を実現し、災害や戦火、さまざまな危機により失われゆく文化財を後世へと継承するため、東京藝術大学が宮廻正明名誉教授を中心に開発したスーパークローン文化財は、大きな反響を呼び、約3万2千人のお客さまにご来場いただきました。

スーパークローン文化財として展示された数々の作品は、唯一無二の歴史的・芸術的価値が認められながらも、惜しくも失われていたり、私たちが実物を鑑賞することが難しい作品たちです。シルクロードの遺産から、ゴッホの絵画や歌川広重の浮世絵、そして国宝絵巻まで、人類の“宝”が時空を超えて目の前によみがえりました。見るだけでなく、スーパークローン文化財だからこそ可能な、触れて感じることができる新しい形の展覧会であり、本展のために現地で撮影された映像、臨場感あふれる音、香りも含め、五感で世界最高峰のアートを体感していただく未体験の展覧会となりました。

本展開催にあたり、多大なご協力を賜りました皆様に対し、心から御礼申し上げます。



### ●藝大ワークショップ①「金魚の気持ち」

【日時】7月27日(土)、28日(日)  
午前の部 10時～  
午後の部 1時30分～

【場所】美術館展示室内  
ワークショップスペース  
浮世絵師・歌川国芳の描いた「金魚づくし」シリーズをモチーフとしたミニ展示で、国芳金魚の世界をVRコンテンツとペーパークラフトを通して体感。



### ●藝大ワークショップ②「色彩のひみつ」

【日時】8月3日(土)、4日(日)  
午後1時30分～

【場所】美術館展示室内  
ワークショップスペース  
絵画や彫刻を通して色について考え、体験するワークショップ。展示作品から様々な色を見つけ出し、実際に自分が使いたい色のクレヨンを作成。



《関連イベント》

### ●記念講演会

「スーパークローン文化財 失われた時の再現」

【日時】7月13日(土) 午後2時～  
【場所】福井県立美術館講堂  
【講師】宮廻正明氏  
(東京藝術大学名誉教授)



### ●藝大ギャラリートーク

【日時】7月21日(日)、8月11日(日)、18日(日)  
午前11時～12時/午後2時～3時 ※各日2回開催

【場所】美術館展示室  
【解説】東京藝術大学社会連携センター研究員

7月21日 ゲスト  
前田耕作氏  
和光大学名誉教授・バーミヤンの研究や保存修復に長年携わってきた第1号者。

8月11日 ゲスト  
井上隆史氏  
東京藝術大学特任教授・元NHKプロデューサー、主な番組「新シルクロード」。



### ●美術館学芸員トークサロン

「スーパークローン文化財展の話」

【日時】7月28日(日) 午後5時～6時  
【場所】美術館喫茶室ニホ  
【講師】野田訓生(総括学芸員)

「スーパークローン文化財って何?」「スーパークローン文化財の美術的価値や意義は?」などなど、さまざまな疑問にお答えしながら、担当学芸員がその魅力や楽しみ方をご紹介します。





## 次回展覧会のお知らせ

コレクション/テーマ展 **Reborn2** 変革と新時代Ⅲ

### 「絵画の変革!江戸から明治へ ～狩野派の終わり、日本画の始まり～」

[会期] 令和元年11月16日(土)～12月25日(水)

江戸時代に御用絵師として画壇に君臨した狩野派が、明治維新を経て岡倉天心らと新しい日本画の基礎をつくるまでの流れを所蔵品から辿ります。江戸狩野の作品から明治に活躍した狩野芳崖とその弟子の作品が一堂に会します。



狩野芳崖《柳下放牛図》1884年 福井県立美術館蔵

コレクション/テーマ展 **Reborn2** 変革と新時代Ⅳ

### 「新時代を描いた奇想の絵師 岩佐又兵衛 — 館蔵コレクション一挙公開! —

[会期] 令和2年1月3日(金)～2月2日(日)

江戸時代初期に京都・福井・江戸で個性的な作風で活躍した“奇想の絵師”岩佐又兵衛(1578～1650)。本展では館蔵の岩佐又兵衛と岩佐派コレクションを一挙公開、福井が誇る岩佐又兵衛の魅力とその系譜をご紹介します。



岩佐又兵衛《三十六歌仙図 小野小町》17世紀(江戸時代) 福井県立美術館蔵



スペシャルメニュー

#### 「栗と胡桃の森 (くりくるパフェ)」

光を聴き、風を視る手塚雄二展の  
スペシャルメニューのテーマは、  
「森」。「渋皮栗アイス」と「珈琲アイ  
ス」の絶妙コンビネーションに、「マ  
ロングラッセ」、ニホの人気おやつ  
「メープル胡桃」など、森の楽しみ満  
載のパフェです。

Contact

美術館喫茶室 **二ホ**

[open] 9:00～19:00

[closed] 月曜日

tel: 0776-43-0310 \*無料Wi-fi\*

address:

〒910-0017 福井市文京3丁目16-1  
福井県立美術館 正面左手

\*美術館が休館でも、  
月曜日以外は営業しております。

お知  
らせ

◎2019年10月  
～2020年2月  
の休館日について

展示替え、館内メンテナンスなどのため、下記期間は休館とさせていただきます。

10月7日(月)～16日(水)、23日(水)、24日(木)、31日(木)、11月5日(火)～13日(水)、18日(月)、25日(月)  
12月2日(月)、9日(月)、16日(月)、23日(月)、26日(木)～1月2日(木)、20日(月)、2月3日(月)～6日(木)

#### 主催共催展情報

- 2019年10月17日(木)～30日(水) 第70回福井県総合美術展
- 2020年3月8日(日)～15日(日) 福井県立美術館実技講座受講生作品展
- 2020年3月11日(水)～15日(日) 福井県立美術館友の会実技講座受講生作品展

#### 貸館情報 [11/1～12/22]

- |   |                                   |
|---|-----------------------------------|
| 11/1～11/4 ●第30回福井県高等学校総合文化祭 美術・工芸・書道・写真展<br>特別支援学校作品展 | 11/29～12/1 ●第60回記念九龍社書展           |
| 11/14～11/17 ●第56回福井一陽展                                | 12/4～12/8 ●第72回示現会巡回福井展           |
| 11/14～11/17 ●爽和会 日本画展                                 | 12/4～12/8 ●第65回フォトフレンズ写真展         |
| 11/15～11/17 ●第1回 文性書社展                                | 12/4～12/8 ●第6回若越美術展               |
| 11/16～11/17 ●第52回福井県学生書道展                             | 12/5～12/8 ●パッチワークで布遊び 栄田美重子と仲間たち展 |
| 11/22～11/24 ●第49回若越書道会展                               | 12/12～12/15 ●第69回福井県勤労者美術展        |
| 11/26～12/1 ●第7回個展「児嶋眞平 日本画新・近作回顧展」                    | 12/12～12/15 ●第28回イーゼル会デッサン展       |
| 11/27～12/1 ●第45回球の会洋画展                                | 12/20～12/22 ●第69回福井書法展            |